

平均20人がコース整備に汗流す。ボランティア終了

コース委員会(早坂幸治委員長)が呼びかけたコース整備のボランティア活動が2月8日から、毎週月曜日に続けられ、3月29日で終了した。平均して一日20人が参加し、午前10時から昼間まで、グリーン回りのかたびらなどの雑草取り、目土入れなどに汗を流した。

作業は毎週月曜日の午前中に行われ、作業終了後には昼食が用意され、それを食べて解散になった。

また、ボランティアに2回参加した人には無料プレー券1枚が進呈された。会社側では「予想以上の協力をしてもらうことが出来て感謝している。ボランティアを通じてコースへの愛着を高めてもらえればさらにうれしい」と話している。



来年10月6, 7日。国体の競技日が正式決定

塩原カントリークラブが会場となる来年の栃木国体ゴルフ競技(女子)の競技日が10月6, 7日の両日と決まった。那須塩原市から5日を準備日、6日を練習日にあてたいとの要請があり、5～7日間はクローズとなる。

当カントリークラブでは今年7月8日に県社会人女子アマ選手権が開催されるが、同市ではこの大会を「国体のプレ大会」としたいと申し入れがあった。

また、今年5月5日には県ジュニア選手権(男女)が開かれるほか、県ゴルフ連盟レディース大会など各種大会も目白押しで、市教委などではこれらの大会を通じてシュミレーションを重ねて本番の運営に万全を期したいとしている。





今年から女子も。県クラブ対抗競技

昨年から男子だけで始まった県クラブ対抗選手権大会に、今年から女子も加わり、第一回競技会が4月16日、東松苑ゴルフ倶楽部(足利市)で開催される。当カントリークラブからは石井益子、薄井孝子、石島尚子、吉松敦子さんの4人の代表チームが参加する。

なお、男子は10月に宇都宮カントリークラブで開催される予定。



県アマ予選、県シニア会も塩原カントリークラブで

県アマチュア選手権の B ブロック予選が5月27日(木)に、またゴルフ連盟シニア会例会が7月15日(木)に塩原カントリークラブで開催される。



人事(4月1日付)

株式会社塩原ゴルフクラブは都築久範副支配人を支配人に昇格させる人事を、4月1日付けで発令する。



塩原カントリークラブ！攻略編！！【北コース】 — 中里 鉄也プロ —

☆ 北コース4番 ☆



【コース解説】

緩やかな右ドックレッグのロングホール！

【中里プロからのアドバイス】

ティーショットは左がOBの為フェアウェー右側に打っていきたいが、右を向きすぎると左に引っ掛けになる為、左を向いてプッシュアウトぎみに打っていきたい。

セカンドショットはやや打上げでつま先上がりのぶん左に行きやすいので、左を注意して打っていきたい。

グリーン周りは左側からアプローチしたい。

次回は、北コース5番を紹介します!!





那須の小天狗・・・小針春芳伝

井上 安正

那須ゴルフ倶楽部では、十一月の下旬から翌年四月までは、雪のためクローズとなるが、春芳少年の才能とやる気は誰をもうならせた。支配人、古手のメンバーの勧めで、入社三年目の冬からは埼玉・川越の霞ヶ関カンツリー倶楽部で研修生として修業することになった。

もちろん、その裏には那須ゴルフ倶楽部の設立そのものにかかわった藤田欣哉らの声かけもあった。藤田は赤星四郎と一緒に霞ヶ関東コースの設計をしていて、「那須の別荘」といわれた霞ヶ関での霞ヶ関修業をかなえさせてくれた。

霞ヶ関カンツリー倶楽部には、藤田というまでもなく、日本プロゴルフ協会の設立メンバーとなる藤井武人プロがいて、アマの達人・三好徳行も出入りしていた。藤田はプレーでもハンディ2で、パッティングでは、パターの根っこ(ヒール)でボールをヒット、ベントグリーン上をカップに向かってゆっくりところがした。春芳少年は、そのパッティングに魅せられた。最初に、その技を自分のものにすることを目標にした。

プロ、アマを問わず、霞ヶ関カンツリー倶楽部に出入りしていた錚々たる顔ぶれを前に、「習うより盗め」と心に決めた。時間があれば、うまいプレーヤーのフォームを目に焼き付け、自分でクラブを振った。「霞ヶ関に修業に行ったばかりの頃は、半年間で三年分の練習をこなすような気持ちでやったね」と振り返っていた。

一九三九(昭和一四)年の夏、那須ゴルフ倶楽部で、初めての関東プロ招待競技会が開かれた。当時、関東のプロは六十人、全国で百人ほどだった。この招待競技は、二〇人ほどのプロを招待し、一日で三十六ホールのスロークプレーで順位を決めた。

この大会で、春芳少年はキャディーとして林万福プロについた。春芳少年のキャディーぶりは林プロを十分に満足させるものだった。おそらく、この競技会のプレー後の懇親会で、春芳少年がプロの間で話題になったのだろう。倶楽部側からも、その精進ぶりと実力のほどが披露されたはずだ。誰からかは判然としませんが、「それなら、来年は試合に出してみたら」という声が出て、反対するプロはいなかった。

そして翌年の第二回競技会に出場が許された。この種の競技会では、新人プロでさえ、ハンディ5が与えられるのが慣例だったが、春芳少年はもらえなかった。春芳少年が握るクラブは貸しクラブで、多くのプロにとっては、「眼中にはない」も同然の存在だったろう。

春芳少年は競技に出させてもらえるだけで、幸せな気持ちになり、感謝の心でいっぱいだった。プレー中は無我夢中だった。ベテランプロになってから、小針はゴルフを始めたころの心境を、「無垢なる心」と表現したが、この日のプレーを支えていたのも、「無垢」の二文字だったかもしれない。

午前中の18ホールを終えて、3アンダー69のトップでホールアウトした。午後の18ホールは4オーバーの76。合計145で浅見録蔵プロと並んで首位だった。浅見は一九八五(明治四一)年の生まれで、前の年に、日本オープン、日本プロの二冠を制していた。9ホールのプレーオフでは決着がつかず、さらに9ホールをやり、やっと2打差がついて浅見の優勝が決まった。

「浅見さんのボールはよく飛んだ。パーシモンで280ヤードは出ていた。9番ホールは440と距離のあるパー4。浅見さんの第2打は5番アイアン、私はスプーン(3番ウッド)だった」



これが、小針少年の感想だったが、小針少年のゴルフに、プロたちが驚きを隠せなかった。この競技会の午前中18ホールで出した69はコースレコードで、今でも破られていない。二位の賞金が五十円、コースレコード賞五十円と合わせ百円をもらった。春芳少年はこの賞金を、そっくり父親に渡した。その時の父の表情やもらった言葉について、小針は「覚えていない」と口を濁した。クラブ所属プロの月給が三十円から三十五円だった時代のことである。一家をあげて、感謝の言葉を送ったに違いない。

当時のプロ資格については説明がある。プロゴルファーの組織化は昭和になってからで、一九二八(昭和三)年に関西プロ研究会が出来て、初の競技会を開いた。その翌年、宮本留吉、安田幸吉がハワイアンオープンに参加、これが初の海外遠征となる。宮本が日本人として初めて全英、全米オープンに出たのは、その三年後である。

一九三一(昭和六)に関東プロゴルフ協会の前身である関東プロゴルフ連盟が生まれ、関東、関西でそれぞれプロ選手権が始まった。戦時下でゴルフ競技が中止に追い込まれ、一九四二(昭和一七)年が、戦前、戦中を通じて最後の日本プロ選手権となった。戦後は関東プロ協会が一九四六(昭和二一)年、二年遅れて関西プロ協会が結成され、プロゴルフ界の再興を目指した。

男子にプロテスト制度が導入されたのは、関東、関西のプロゴルフ協会が統一され、日本プロゴルフ協会が設立された一九五七年(昭和三二)年から。アメリカにならってシード制を採用したのは一九七四(昭和四九)年のことだった。

小針少年がプロ資格を得た時代は、プロがその実力を認めたプロの卵を、所属クラブから、関東なら関東プロ連盟に届けを出させ、連盟がプロのお墨付きを与えていた。もっとも、当時は競技会そのものが少ないうえ、貨幣価値の変遷を考慮しても、優勝賞金も極めて少額で、米一俵、味噌一樽などと、現物支給の試合もあった。だから、小針少年が第二回のプロ招待競技でもらった賞金は破格でもあった。

小針少年のプレーに感心したプロの薦めもあって、那須ゴルフ倶楽部から「うちの所属プロとして認めます」と連盟に届けがあって、十月に栃木県で初のプロゴルファーとして認定された。弱冠十九歳。「栃木県内初のゴルフ場が生んだ、県内初のプロ」の誕生だった。小針少年は賞金よりは、プロ資格をもらえた方がうれしかった。

小針春芳のプロ初戦は、一九四一(昭和一六)年の関東プロゴルフ選手権(千葉・鷹之台)だった。二十歳になったばかりの若者とはいえ、那須とは違う暑さにへばって、予選落ちのほろ苦いデビュー戦だった。第二戦は日本オープンゴルフ選手権(横浜・旧程ヶ谷)。初日は1アンダーで首位に立てた。しかし、二日目はズルズルと後退し、結局、十二位と凱旋気分にはほど遠く、足をひきずるようにして、唇を咬んだまま那須へ帰った。

(つづく)



— 編集後記 —

首都圏の1都3県に出されていた新型コロナウイルスの緊急事態宣言がやっと解除となった。私は毎朝7時前にさいたま市の自宅周辺で散歩を欠かさないが、最近、ゴルフバックを立ててたらずむ若い女性ゴルファーを一日おきに、2回見かけた。

連れが拾ってくれる車を待つ彼女のはやる胸の内を察して、ほほがゆるみ、「塩原カントリーといういいコースを知ってますか」と声をかけたくなった。1年を超すコロナ禍の“自粛”ですっかり在宅勤務が定着しかかり、「あくせくしなくとも、日常は成り立つ」という実感を持った人多かろう。春の日差しを満喫してプレーを楽しめればなおさら。満開の桜がレストランの窓を飾るのも間もなくである。

井上 安正



3月30日 15時現在 レストランからの桜 

